



〔対象〕

小・中学校、
特別支援
学校

受付期間

2026年 2026年
8月1日^土～9月2日^水
15時 送信完了分まで

助成

最優秀校
300万円

全応募校に審査講評と
ソニー製品等を贈呈

後援



文部科学省

2026年度 ソニー子ども科学教育プログラム

教育実践 論文募集

「科学が好きな子どもを育てる」ための教育実践と計画を
論文にまとめて応募してみませんか（全教科等対象）

子どもたちの生き生きとした学びと主体的な探究の姿を通して、個性ある実践、
他校の参考になる取り組みについてまとめた論文を募集しています。

主 題	「科学が好きな子どもを育てる」		
対 象	国・公・私立の小学校、中学校、特別支援学校		
内 容	主題にもとづく教育実践と計画		
受 付 期 間	2026年 8月1日（土）～2026年 9月2日（水）15時 送信完了分まで		
応 募 方 法	ソニー教育財団ウェブサイトの専用応募フォームから送信		
助 成 内 容	[最優秀校] 300万円とソニー製品等 [優秀校] 50万円とソニー製品等 [奨励校] 10万円とソニー製品等 [教育みらい賞] 15万円とソニー製品等		
入 選 発 表	2027年 1月中旬以降 当財団ウェブサイトにて発表予定		
審査委員会	[審査委員長]	杉野 剛	独立行政法人日本学術振興会 理事長
	[審査委員]	清原 洋一	学校法人秀明学園 秀明大学 教授
		熊平 美香	一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事
		手代木 英彦	ソニーグループ株式会社 社友
		山下 修一	国立大学法人千葉大学 教授



公益財団法人
ソニー教育財団

募集内容

主 題 「科学が好きな子どもを育てる」

内 容 主題にもとづく教育実践と計画

子どもたちの主体的で生き生きとした学びと科学的な思考をもった探究の姿を通して、個性ある実践、他校の参考になる取り組みについてまとめた論文を募集します。

全教科等(教育課程内の活動)が対象です。

対象期間 2025年9月から2026年8月までの実践と、2026年9月から2027年8月末までの計画

2025.9月

2026.4月

2026.9月

2027.8月

2025年9月～2026年8月
までの実践(応募校での実践)

9
月
2
日
締
切

2026年9月～2027年8月末
までの計画

記述できる実践は応募校での実践に限ります

審査

審 査 審査委員会による、書類(論文)審査・現地調査および最終審査を経て、入選校を決定します。

審 査 の
観 点

配点割合

60%

教育実践

科学が好きな子ども像

ページ枚数目安: 10～14ページ

貴校が考える「科学が好きな子ども像」と、
それを実現するための現在の課題が明
確に記載されている

問題解決のために、貴校が独自に考え、
工夫している研究構想や手立てが
記載されている

「教育実践」において、具体的な「子ど
もの姿」や「子どもの変容」が実証的
に記載されている

授業等、学校全体や地域と連携した「科
学が好きな子ども像」に結びつく活動
が記載されている

配点割合

40%

教育計画

教育実践の成果と課題の考察

ページ枚数目安: 5～8ページ

「教育実践の成果と新たな課題・考察」
が子どもの姿を通して明確に記載されて
いる

成果の向上や、新たな課題を解決するた
めの今後の「教育計画」が記載されて
いる

連続応募校 上記に加え、前年度の課題や計画に対する取り組み、前年度からの内容の深まりも評価の対象です。

審 査
委 員 会

審査委員長 杉野 剛 独立行政法人日本学術振興会 理事長

審査委員 清原 洋一 学校法人秀明学園 秀明大学 教授
熊平 美香 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事
手代木 英彦 ソニーグループ株式会社 社友
山下 修一 国立大学法人千葉大学 教授

50音順

助成内容

審査講評とソニー製品等を全応募校へ贈呈 /

最優秀校

教育助成金 **300万円**
ソニー製品等^{*1}

優秀校

教育助成金 **50万円**
ソニー製品等^{*1}

奨励校

教育助成金 **10万円**
ソニー製品等^{*2}

子ども科学賞

ソニー製品等^{*3}

^{*1}…4K液晶テレビ、デジタル一眼カメラ等から一つ。 ^{*2}…ソニー製品等
^{*3}…ICレコーダー、ワイヤレスポータブルスピーカー等から一つ。(2026年度は変更になる場合あり。)

奨励校 教育みらい賞

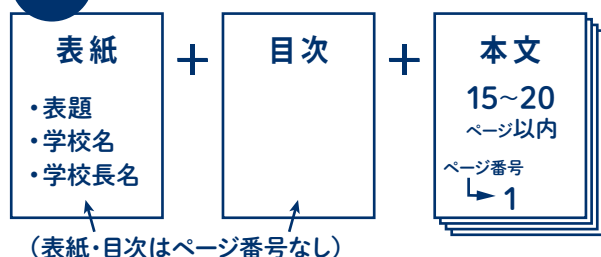
奨励校のうち 個性的な取り組みには
教育みらい賞(+5万円)を贈呈

作成規定

- すでに他で発表している論文と概ね同じ記述の論文は、審査対象外です。
- 過去の応募論文からの転載(文章・写真等)は、減点あるいは審査対象外です。
転載が必要な場合は、本文中に論文応募時の年度を記載してください。
- 本文中の図表などで読み取れないもの
(サイズが小さい、画像が不鮮明等)は、審査対象外です。
- 論文以外の参考データ(動画等)は受け付けません。

論文は公開することがあるため、個人情報の
取扱い、著作権侵害、捏造や改ざん、社会への
影響など倫理面への配慮をお願いします。

A4 A4判、本文のみページ番号を付記



「本文」について

- 【ページ数】 15~20ページ以内
- 【文字サイズ】 [本文] 10.5ポイント以上
[図表] 8ポイント以上
- 【行間目安】 図表なしで1ページ40行以内となる行間
- 【ページ番号】 本文のみページ番号付記
- 【実践・計画】 教育実践には「年・月」を明記
教育計画には「年度」を明記
- 【参考・引用文献】 本文中に明記
- 【研究代表者・全執筆署名】 最終ページに明記

募集要項

- 受付期間** 2026年8月1日(土)~2026年9月2日(水) **15時 送信完了分まで**
- 応募資格** 国・公・私立の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校
 - 学校全体、あるいは学年・学級・教科部会単位で応募できますが、応募は1校から1件のみ。
 - 2025年度の最優秀校は応募できません。
- 応募方法** Web応募(詳細は本紙裏面に記載)
- 入選発表** 2027年1月中旬以降 ソニー教育財団ウェブサイトにて発表予定
- 成果発表** 最優秀校と優秀校には、受賞の翌年度に以下の成果発表を行っていただきます。

最優秀校

- 論文の全文公開(写真を含む)
- 2027年度に「子ども科学教育研究全国大会」を開催(必須)

優秀校

- 論文の全文公開(写真を含む)
- 2027年度「子ども科学教育研究全国大会」のポスターセッションにて発表

・教育みらい賞受賞校にも論文公開やポスターセッション等による実践の公開について相談をさせていただくことがあります。

ご応募いただく論文および関連情報について、以下の点をあらかじめご理解・ご了承の上、ご応募ください。

論文、学校名、所在地、研究内容などの関連情報は、当財団が、成果の還元、普及や、広報活動のために使用、公開させていただきます。論文を本プログラム以外で使用、公開、出版、掲載等することを希望される場合には、事前に当財団にご連絡の上、許可を得ていただきます。応募情報(論文含む)は、当財団が、本プログラムに関する審査結果の通知、各種行事の案内、その他の連絡・確認のために使用させていただきます。ご応募いただく論文は、関連するすべての権利(本文および使用された写真等にかかる著作権、ならびに上記の当財団による使用等を許諾する権利を含むがこれに限らない)を、応募者が保有しているものに限りします。

ソニー教育財団の論文応募サイト(<https://www.sony-ef.or.jp/>)よりご応募ください。
ご応募にはログインアカウントの登録が必要です。

2026年8月1日
受付開始

応募の流れ

1

ログインアカウント登録

過去に登録がある方も
毎年登録が必要です

2

応募フォーム入力

入力項目が多数あります
所要時間目安：10分～30分

3

論文(PDF)送信

論文の送信完了は
メールでお知らせします

👑 2025年度 最優秀校

郡山市立明健小学校 (福島県)



テーマ 自ら自然に働きかけ、
自ら科学を学ぶ意義や価値を
創り出すやさしい子どもの育成

刈谷市立朝日中学校 (愛知県)



テーマ 科学が好きな生徒を育む
朝日中プロジェクト2025
～生徒と教師がともに主体的に考え、判断・行動し、
成長していく学校を目指して～

2025年度
優秀校

- 遠軽町立丸瀬布中学校 (北海道)
- 福島市立三河台小学校 (福島県)
- 国立大学法人福島大学附属小学校 (福島県)
- つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校 (茨城県)
- 学校法人昭和学院 昭和学院中学校・高等学校 (千葉県)
- 横浜市立立野小学校 (神奈川県)
- 三条市立一ノ木戸小学校 (新潟県)
- 長久手市立南中学校 (愛知県)
- 京都市立修学院小学校 (京都府)
- 北九州市立大積小学校 (福岡県)

科学が好きな子どもを
育てる実践に取り組んでいます

ソニー教育財団について

— 学校・園の先生を応援しています —

ソニー創業者 井深大は、次世代を担う子どもたちの科学教育の充実のため、1959年に学校への助成活動を開始しました。その後、井深の関心は乳幼児期の教育と人の心を育てることの大切さへと広がりました。井深の志を受け継ぐ事業を継続的に発展させるため「ソニー教育財団」となり、65年以上続く論文事業の他、優れた教育・保育実践の公開や発信、未来志向の教員・保育者向け研修会、子どもに科学の原理を伝える「ものづくり教室」など、教育現場と未来を生きる子どもたちを支援するさまざまな活動を行っています。

